

【るもい農業情報広場】

令和4年5月1日

R4-5月号

QRコードを読み取って
アクセス!!!

今月の技術対策 (畑作編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp



水稲・園芸編も
HPで公開中!

【秋まき小麦】

1 生育状況に応じた窒素追肥

- ・「品種別窒素追肥量の目安」(下表)を参考に窒素追肥を実施しましょう。
- ・過繁茂なほ場では、生育に応じて追肥量を減じましょう。

表 道北における品種別窒素追肥量の目安 (kg/10a)

生育期節	品種名	(kg/10a)		
	きたほなみ	ゆめちから	つるきち	
幼穂形成期(平年5/8)	4	6	4	
止葉期(平年5/27)	4	6	4	

2 除草剤散布

- ・雑草の発生状況をよく確認し、雑草が小さいうちに除草剤処理を行い、発生量を低減させましょう。

3 病害虫防除

(1) 眼紋病

- ・例年、連作・短期輪作ほ場を中心に発生が見られます(倒伏・減収の原因となります)。
- ・該当するほ場があれば早め(幼穂形成期頃)の防除を実施しましょう。

(2) 赤さび病

- ・気温が高く雨の少ない条件で多発します。
- ・特に小麦の生育後半に急激に発生拡大します。
- ・近年、きたほなみで全道的に発生が目立ってきています。
- ・止葉抽出前(5月中旬)に下葉を確認し、病斑が目立つ場合には、防除を行って下さい。



写真 眼紋病



写真 赤さび病

4 倒伏防止

- ・過繁茂のほ場では倒伏の発生が懸念されるので、植物成長調整剤(サイコセル、カルタイム等)の使用を検討して下さい。
- ・使用にあたっては、使用時期・使用量・使用上の注意点を十分確認して実施しましょう。

【大豆】

1 は種

(1) 種子の準備

- ・使用する種子は「根粒菌接種された種子の使用」または根粒菌接種を行いましょう。
- ・必ず種子消毒(粉衣・塗抹)を実施しましょう。

(2) は種時期

- ・今後の天候にもよりますが、乾燥による出芽不良を避けるため、ほ場水分がある内に、は種時期の検討(5月20日頃のは種)をしましょう。

(3) は種深度

- ・適正は種深度は2～3 cm程度です。
- ・ほ場が乾燥している場合には4～5 cm程度と、やや深めに調整しては種しましょう。

(4) 施肥

- ・施肥量は「北海道施肥標準」(下表)を基本とし、土壌診断や前作、有機物の施用状況により増減します。

表 道北における施肥標準

(kg/10a)

区分	窒素(N)	リン酸(P)	カリ(K)	苦土(Mg)
低地土	1.5～2	11	8	3～4
泥炭土		12	10	
台地土		12	8	

2 除草剤散布

- ・例年、除草剤散布が遅れるほ場が散見されます。
- ・豆類の除草剤は使用時期が短いことから、は種後速やかに散布できるよう準備しましょう。
- ・土壌処理剤の効果を高めるためには、次のことに注意し雑草の発生低減に努めましょう！
 - ① 碎土整地を丁寧に行う
 - ② 土壌水分が適度にある状態で、適期に散布する

農作業安全・農薬の適正使用を心がけましょう！